

**1. 地域子育て支援拠点は、すべての子育て家庭のニーズと社会資源をつなぐ地域のインフラ的な役割を果たしている。多様な当事者のニーズと支援メニューをつなぐ人材の育成は急務。切れ目のない支援のためには、各家庭の事情に応じたコーディネートができる専任の人材に安定的財源の確保を！**

◆地域子育て支援拠点事業の4つの柱

①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進    ②子育て等に関する相談・援助の実施  
 ③地域の子育て関連情報の提供                      ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

●0歳～3歳未満児の約8割が保育施設以外で子育てをしているとともに、平成22年版子ども・子育て白書によると、**保育所待機児童数のうち低年齢児(0～2歳)が全体の約82%**を占めている。待機児童数の中には、一気に保育所入所という選択でなく、一時預かりや再就職支援、家庭的保育といった段階的なメニューによって緩やかに解決できるケースも含まれている。

産前・産後、保育所、幼稚園、放課後児童と**切れ目のないサービスの提供を目指すにあたり**、0～3歳未満児の子育て家庭に身近にアクセスできる地域子育て支援拠点の果たす役割は大きい。

「**子育ての最初の一步**」を当事者ニーズに寄り添ってきめ細やかにコーディネートすることが、発達不安、虐待、待機児童問題といった**個々の喫緊の課題**に本当に必要なサービスを見極める機会にもなっている。

■年齢区分別待機児童数

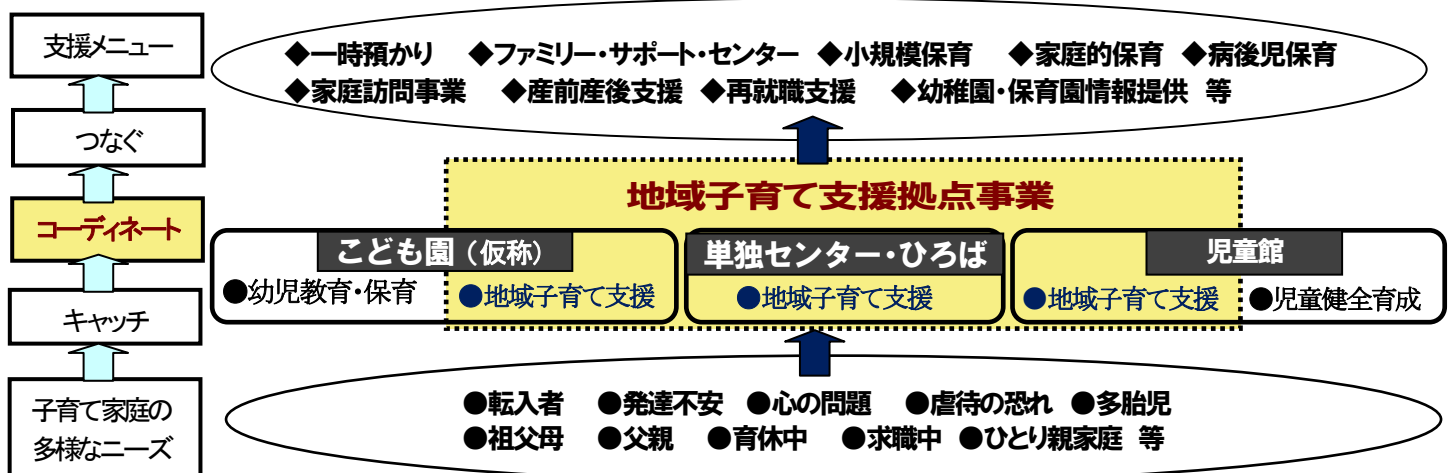
2009年4月1日現在

	利用児童数		待機児童数	
	人数	割合	人数	割合
低年齢児(0～2歳)	709,399人	34.8%	20,796人	81.9%
うち0歳児	92,606人	4.5%	3,304人	13.0%
うち1・2歳児	616,793人	30.2%	17,492人	68.9%
3歳以上児	1,331,575人	65.2%	4,588人	18.1%
全年齢児計	2,040,974人	100.0%	25,384人	100.0%

(平成22年版 子ども・子育て白書より)

●多様な子育て家庭が利用する地域子育て支援拠点は、地域の核となって**当事者のニーズをキャッチ**し、相談援助、情報提供、諸機関との連携など、適切な子育て支援事業や社会資源につなぐ**コーディネート機能**を持っている。また、NPOなどの市民が協働して担うことで、**行政だけでは担えない柔軟な対応**にも力を発揮することができる。

●地域子育て支援拠点において、多様な**民間/公的な子育て支援メニュー**の中から、各子育て家庭がどのようなサービスをどう選択すれば良いのかをサポートするには、中学校区から小学校区に**専任の子育て支援コーディネーター**を設置し、安定的な財源で支える必要がある。



## 2. 個人給付の枠組みでの一時預かりは、安心して祖父母に預ける感覚で実施できる環境が必要。

地域子育て支援における一時預かりは、日頃通いなれた場所で信頼して子どもを預けられる親の心の安定とともに、子どもの発達にとっても大事な育ち合いの場となっている。祖父母のような身近な感覚でちょっと預けることができる場所が行き詰った親子の関係に第三者が介在する機能も果たしている。

### 地域子育て支援拠点における一時預かり利用者の声 (利用者アンケート・0123育ちの詩応募作品より抜粋)

- ・一時預かりがなかったら今ごろ煮詰まってしまうている。子供と2人きりしていると、虐待しそうになる時がある。でも託児があるおかげで自分を取りもどす事が出来る。
- ・少しの時間でも母子が離れることで、意識していなかった負担を解消することができるようになった。
- ・安心して講座を受けたり病院へ行ったり、リフレッシュできた。
- ・子どもと二人でいる時間が辛く、まだ話せない息子を怒鳴ったり、体も心もコントロールできない時期がありました。スタッフの方に相談し、一時保育を利用しました。初めは子どもがかわいそうという気持ちがこみ上げて自分の時間をゆっくり過ごすことが出来ませんでした。何度か預けているうちに子どもと一緒にいるのが辛いという気持ちが和らいでいきました。素直に打ち明けることができ本当に良かったと思います。